

大型化する中国海軍空母訓練センター

漢和防務評論 20140324

阿部信行

(訳者コメント)

中国遼寧省葫蘆島に建設された中国海軍の空母訓練センターは、規模が大きく空母飛行甲板を模擬したスキージャンプ式滑走路が2本あるようです。また中国海軍は艦載機の行動範囲を広げるため J-15 から J-15 へ空中給油する方式をテスト中のようです。

記事では、スキージャンプ式空母艦載機の短所として給油母機の燃料搭載能力を上げています。

KDR ニュース要約：

中国の官側テレビ放送は、習近平が葫蘆島の中国海軍艦載機パイロット訓練センターを視察した映像を放映した。同映像では J-15 が1機陸上に設置されたスキージャンプ式甲板から離陸した。この基地は、今のところ世界最大の空母艦載機陸上試験飛行センターである。2年前に KDR は、衛星写真を分析してスキージャンプ式離陸滑走路が2本あると判断した。現在この基地は、中国海軍の2個飛行連隊分の艦載機パイロットを同時に訓練できる規模になった。

最新の衛星写真では、アレスティング・ワイヤー、及び下甲板に変速装置が2基あるのが見える。これは同時に2機の J-15 型戦闘機が離着陸できることを意味する。すなわち艦載機パイロットの養成が短期間でできることを意味する。訓練センターの施設内からは、電磁カタパルトも蒸気カタパルトも見えなかった。このことは、将来、相当長期にわたって中国海軍空母は、J-15+スキージャンプ離着陸方式を採用すること、少なくとも最初の2艘の国産空母はこの方式を採用することを意味する。

中国海空軍の事業の進度は、KDR が判断し報道した速度よりも全て速い。例えば J-15 の給油機問題である。KDR は1年前に、「現在 J-15 の唯一の空中給油方式は、ロシア式“随伴給油技術”すなわち MIG-29K に給油するために同じ MIG-29 に携帯式燃料タンクを携行させる方式を開発中である」と報道したが、2013年12月にはすでに J-15 が1個の大型給油用タンクを携行している写真が出現した。中国海軍はすでに“随伴給油方式”をテストしていると見られる。

スキージャンプ式空母艦載機の最大の短所は、“随伴給油方式”を採用したとしても、米軍の F-18 のような大量給油が出来ないことである。J-15 給油母機は、スキージャンプ式離陸を行うかぎり、自らの飛行に必要な燃料量と給油する燃料量に制約を受ける。給油機は機内燃料に制約を受け、しかも武器の携行が出

来ない。随伴給油機は、1 回の飛行で 1 回だけしか給油することができない。より多くの燃料を搭載して離陸するためには、J-15 であろうと MIG-29 であろうと陸上基地から離陸するしかないが、そうすると空母の作戦行動範囲に制約を受ける。

以上